

「女性リーダー・エンカレッジ洋上研修」を終えて

ダイバーシティコンサルタント・キャリアコンサルタント 植田寿乃

2020年までに監督職の30%をと国が打ち出した目標数値を意識しながら、女性管理職の育成を目指す企業が非常に増えてきています。しかし、絶対数として候補が少ない女性リーダー候補を、集めて研修することができないという企業が大変多いのが実情です。また、自社に女性管理職のロールモデルが不在で、当人の女性達がどのように成長していったらいいか戸惑いを感じ、育成がなかなか上手くいかないという会社もたくさん見てまいりました。



そこで、日本生産性本部が主催する「生産性の船」の特別コースとして、「女性リーダー・エンカレッジ洋上研修」を、日本生産性本部のダイバーシティ推進室長の長谷川さんと企画しました。

女性リーダーたちにとって、周りから期待され頑張ることはやりがいである反面、頑張り続けることはとても大変です。息が切れたり、壁にぶつかり、身動きがとれなくて苦しくなったり、周囲からの期待やプレッシャーを背負い、悩むことも多々あります。

こんな女性リーダーたちが、洋上という空間でじっくり自分と向き合い、日本を離れることで、高く広い視野をもって自分の人生、キャリア、仕事のことを見つめ直し、研修後は、自然体で頑張る素敵なロールモデルとしての活躍してもらいたいと願いを込めました。

男性の方々の中には、なぜに女性だけのコースが必要なのかという疑問を持たれる方もいらっしゃるかと思います。しかしながら、これは男性の視点での捉え方です。まだまだ数の少ない女性管理職や女性管理職候補は、会社での日常「女性専用列車に間違えて乗ってしまった男性」のような感覚で実は過ごしています。20代独身であれば、男女の差はないのですが30代、40代となりちょうど仕事が面白くなりキャリアを伸ばしていきたい時に、結婚や出産のタイミングが重なります。優秀な女性達が、女性としての人生のトピックもちゃんと持ちながら、仕事でも成長し、管理職となっていくためには、目指す目標となる女性のロールモデルとの出会い、また同じ世代と一緒に頑張っていこうという仲間との出会いが必要なのです。

今回は短期の限定募集のため6名の参加者でしたが、30歳を中心に40代半ばまでの年齢構成の中、まさに参加者の中でロールモデル、仲間を見つけることができました。私のコースは、他のコースのカリキュラムとは異なり、自分自身の心を見つめ、気づき、自らの未来図を持つことが目標でした。その結果、参加した彼女たちにとっては「気づきと感動の旅」となったようです。緊張していたり、自信無げだったりの6人が、最後に背筋をぴんと伸ばし、堂々と胸をはって発表をしている姿に、私自身とても感動しました。



洋上での6日間をたどるなら、スペースシャトルに乗り込んで地球を一周してきたような感覚でしょうか。男性が同じ釜の飯を食うことによる絆ができるといいますが、女性もその絆以上のものを見つけ、まさに親友を通り越して姉妹のような深い信頼関係で結ばれました。洋上研修の通常のクラスはまだまだ女性の参加者が少ないようです。何時の日か、「生産性の船」に乗る人達がまずは30%女性となった時こそが、日本のダイバーシティ実現かもしれません。